大正十五年六月二日

一 桜市雑誌大高氏社中島聰司氏より事務完全の来翰あり

相談益々進捗の為邦家大慶之極に存じ社会同の争議も発生せざる迄日々奮闘与和之共に其心の程察上し小生も近頃労働運動あるものを起せし人々の動機生他より生じ遺憾を感じ居るものにして恒に彼等が今一歩高き地歩を立つて生活を顧みるに至らん事を希望居るものなりと只今の社の態度は最も適切なるものと深く感激いたし居り候 松本市等よりも青年団体聯盟をかいふ迄中の野次陸が大分出来居る様子アキレ申候 彼等に煽られし労働団の却て本業の毒を存し新聞紙の使闘の程遠き形上笑へる方上方多し此の点敬具。

一 富士瓦斯紡績会社医師より来稿 北松島近各駅従業員健康診断結果左の通り成績良好なりと各自奮励疲労の色なし。

人員九十三人 内 健体 八十八人
負傷(軽) 一人
胸膜加多る 三人
血膜炎 一人

一 阪岡町林雅次氏より従業員一同より慰問として金貳拾円に業務二包を寄来市海保源之助氏より内勤社員へ贈与を兼て病者五十枚寄贈を受けたり。